E 22

若年層世帯の住要求に関する研究（第一報）
子どもの家事手伝いと台所空間との関係について

聖徳学園女短大　　新田　米子

目的　我が国の地価高騰現象は、今後益々質の高い集合住宅への要求を高め、家族のライフステージやライフスタイルへの対応は必須となろう。本研究は、ライフステージに対応する住戸平面を明らかにすることを目的とし、今回はとくに若年層世帯における子どもの家事参加と台所空間の関係について分析を試みる。

方法　名古屋市の中心部に近い熱田区の"神宮東パークハイツ"，"桜田団地"（住・都公団）に居住する、児童および幼児の居る世帯を対象に調査票留置法による調査を実施した。期間は、1990年11月30日～12月3日。有効回収数は、１６８。

結果　①入居者の住宅に対する総合評価は比較的高いといえるが、部屋数、広さ、間取り、台所・浴室設備、騒音、収納等については不満を訴える者が少なくない。

②小学生の家事手伝い程度は、「よくする」「まあやる方」が40.9％とそれ程高いとはいえない。「炊事手伝い」については、約４割の子どもが「よくする」「時々する」と答えているが、高学年に比べ低学年が、男子より女子がその割合が高くなっている。③「炊事手伝い」程度をキッチンタイプ別でみると、ＤＫ型が最も高く（52.2％）、Ｋ独立型とＬＫ型は類似した傾向を示す。④キッチンの使い勝手について、とくに複数で作業する場合に問題があると答えた者は、ＤＫ型よりもＫ型、ＬＫ型で多い。⑤複数で作業する時に使いやすいと思われるキッチンタイプについて、現在のタイプがＤＫ型、ＬＫ型の場合はＤＫ、ＬＫ、Ｋ型の順で、またＫ型の場合はＤＫ、Ｋ、ＬＫ型の順で妥当としている。⑥Ｋ型では、とくに「台所が狭い」という不満が高い（60.0％）。